令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

道徳　１年生

１　日常の学習状況について

(1) 道徳の年間指導計画にそって、教科書や道徳ノート、ICT 教材を活用して指導している。授業者は授業後にノートを確認し、生徒の授業前と授業後の変容を見取っている。ホワイトボードや学習者用端末を使用して、小グループでの意見交換なども取り入れ、一人一人の考えや思いの違いを知る機会を設けている。

(2) 「考え、議論する」授業に結び付けていくために、題材に触れる、自分の考えをまとめる、小グループで意見交換をする。さらに各グループの発表から他者の考えに触れる、発表を通して感じたことをノートにまとめ、自分の考えを振り返り、深める。という授業スタイルの定着を図っている。

２　日頃の学校生活の様子を踏まえて

(1) １学期は、「主として自分自身に関すること」について取り上げ、特に「向上心、個性の伸長」や「強い意志」などの価値項目について理解を深めた。学期始めということもあり、「よりよい学校生活、集団生活の充実」「相互理解」についても理解を深めた。学校生活やその他の場面で、生徒たちが道徳での学びを生かし、人権尊重の意識を高めていくよう加えて指導する。

(2) 「考え、議論する」授業を通して、自己理解と他者理解を深めていくこと、様々な感じ方や考え方があることを認識し、尊重できるような生徒を育成したい。

３　教科の課題

(1) 学習面

主な教材として教科書を活用するため、「１つの発問に対して答えが１つ」という先入観に捉われる生徒もいる。道徳の発問を自分ごととして捉えて考え、グループで議論することで更に考えを深化させるイメージをもたせていくことが課題である。

(2) 指導面

導入、主発問、終末の締めくくり方を、生徒の実態に合わせて最も効果的になるよう、十分に吟味、工夫する必要がある。特に、葛藤する場面の問題提起をする発問の工夫を丁寧に行い、生徒が考えを深めるきっかけになる発問をすることに課題がある。

４　授業改善について

(1) 学習面

・道徳ノートを活用し、年間通じて生徒の変容を見取ることができるようにする。
・道徳ノートに自分の考えを書くことができない生徒には個別に声をかけ、促す。

(2) 指導面

・学習後、道徳ノートの内容を丁寧に読み取り、生徒一人一人の変容を適切に評価する。
・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。
・より高い学習成果が得られるよう、学習者用端末及び視聴覚教材の活用方法を継続的に研究する。

５　成果の確認

(1) 授業ノートを授業者がすぐに評価・分析し、生徒の変容を確認していく。

(2) 授業アンケートにおいて、道徳の授業について生徒へアンケートを実施する。

令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

道徳　２年生

１　日常の学習状況について

(3) 道徳の年間指導計画に沿って、全ての学級が同じ内容項目、同じ題材を、教科書や道徳ノートその他の教材を利用して指導している。授業者は授業後にノートを確認し、生徒の授業前と授業後の変容を見取っている。ホワイトボードや学習者用端末を使用して、小グループでの意見交換なども取り入れている。意見交換をする際は、様々な考えがあることを生徒たちに実感させるように指導している。

(4) 「考え、議論する」授業に結び付けていくために、以下のような流れで指導し、定着を図っている。

①内容項目を確認し、題材に触れ、教師の発問に対して自分の考えをまとめ、小グループで意見交換をさせる。

②それぞれのグループの発表からより多くの他者の考えに触れ、発表を通して感じたことをプリントにまとめさせる。

③その後、自分の考えを振り返り、深めさせる。

２　日頃の学校生活の様子を踏まえて

(3) １学期は、「相互理解、寛容」、「思いやり、感謝」、「友情、信頼」、「生命の尊さ」などの内容項目について理解を深めた。

(2) 理解を深めた内容を、日頃の学校生活やその他の場面で生徒たちが生かし、よりよく生きることができているかどうか、認め、励ましている。

３　教科の課題

(3) 学習面

・主な教材として教科書を活用するため、「１つの発問に対して答えが１つ」という先入観にとらわれる生徒もいる。道徳の発問を自分ごととして捉え考えさせ、グループで議論することで更に考えを深化させるイメージをもたせることが必要である。

(4) 指導面

・道徳科と国語科の求めるところが違うことを本質としてどこまで理解し指導できるかに課題がある。葛藤する場面の問題提起をする発問の工夫を丁寧に行う必要がある。生徒が考えを深めるきっかけになる発問をする必要がある。

４　授業改善について

(3) 学習面

・年間通じて生徒の変容が見られるように、道徳ノートに個々の考えを蓄積する。

・道徳ノートに自分の考えを書くことができない生徒には個別に声をかけ、促す。

(4) 指導面

・学習後、道徳ノートの内容を丁寧に読み取り、生徒一人一人の変容を適切に評価する。

・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。

・学習者用端末を使って、生徒たちの議論の結果を瞬時にフィードバックする技術を習得する。

・道徳の評価の考え方・進め方について、ＰＤＣＡサイクルで指導の効果を上げていく。

５　成果の確認

(1) 授業プリントを授業者がすぐに評価・分析し、生徒の変容を確認していく。

(2) 授業アンケート並びに学校評価において、道徳の授業について生徒・保護者アンケートを実施する。

令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

道徳　３年生

１　日常の学習状況について

(5) 道徳の年間指導計画に沿って、全ての学級が同じ内容項目、同じ題材を、教科書や道徳ノートその他の教材を利用して指導している。授業者は授業後にノートを確認し、生徒の授業前と授業後の変容を見取っている。ホワイトボードや学習者用端末を使用して、小グループでの意見交換なども取り入れている。意見交換をする際は、様々な考えがあることを生徒たちに実感させるように指導している。

(6) 「考え、議論する」授業に結び付けていくために、以下のような流れで指導し、定着を図っている。

①内容項目を確認し、題材に触れ、教師の発問に対して自分の考えをまとめ、小グループで意見交換をさせる。

②それぞれのグループの発表からより多くの他者の考えに触れ、発表を通して感じたことをプリントにまとめさせる。

③その後、自分の考えを振り返り、深めさせる。

２　日頃の学校生活の様子を踏まえて

(4) １学期は、「自主・自立」、「遵法精神・公徳心」、「向上心・個性の伸長」、「友情、信頼」などの内容項目について理解を深めた。

(2) 理解を深めた内容を、日頃の学校生活やその他の場面で生徒たちが生かし、よりよく生きることができているかどうか、認め、励ましている。

３　教科の課題

(5) 学習面

・主な教材として教科書を活用するため、「１つの発問に対して答えが１つ」という先入観に捉われる生徒もいる。道徳の発問を自分ごととして捉え考えさせ、グループで議論することで更に考えを深化させるイメージをもたせることが必要である。

(6) 指導面

・道徳科と国語科の求めるところが違うことを本質としてどこまで理解し指導できるかに課題がある。葛藤する場面の問題提起をする発問の工夫を丁寧に行う必要がある。生徒が考えを深めるきっかけになる発問をする必要がある。

４　授業改善について

(5) 学習面

・年間通じて生徒の変容が見られるように、道徳ノートに個々の考えを蓄積する。

・道徳ノートに自分の考えを書くことができない生徒には個別に声をかけ、促す。

(6) 指導面

・学習後、道徳ノートの内容を丁寧に読み取り、生徒一人一人の変容を適切に評価する。

・指導方法を話し合い、指導者が学級の実態に即して指導できるように指導技術の交流、向上を図る。

・学習者用端末を使って、生徒たちの議論の結果を瞬時にフィードバックする技術を習得する。

・道徳の評価の考え方・進め方について、ＰＤＣＡサイクルで指導の効果を上げていく。

５　成果の確認

(1) 授業プリントを授業者がすぐに評価・分析し、生徒の変容を確認していく。

(2) 授業アンケート並びに学校評価において、道徳の授業について生徒・保護者アンケートを実施する。